

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031B	スタジオ入門 (生川卓弘) STUDIO introduction	生川卓弘		専門	2	必修	2後期

**科目の概要**

勉強を意味する「スタディ」と本科目名「スタジオ」の語源は共に「ステューディオ」という何かに熱中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態が何かに取り組むことであり、その作業をおこなう場が「スタジオ」である。みなさんには、この「スタジオ」で夢中に「スタディ」をしてほしい。「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熱中、集中して取り組むための準備をおこなう。まず、前半では教員が提案するブレ・プロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実践的な課題解決へ向けて、「ライフスタイル学習」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技術・能力を活用するためにはどうしたらよいのかも考えていってもらいたい。

本科目とこれにつく「スタジオ実践C」はDP1「建学の精神、社会人基礎力、nissu型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」、DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる」、DP3「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組む、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」となることを目指すライフスタイル学科のカリキュラムの核となる。

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見する。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的に課題を達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容が提案できる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**      **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

**テキスト及び参考文献**

テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。  
 参考書：授業内で適宜紹介していく。

**他科目との関連、資格との関連**

この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA, B, Cさらには卒業研究へとつながっている。

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていく心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		30	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		60	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>・自分の役割を認識し、課題の完成に向けて積極的に取り組んでいる。</p> <p>・活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。</p> <p>上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS（秀）評価とする。</p>	<p>・協力的な態度で課題に取り組んでいる。</p> <p>・活動報告がきちんと記録され、提出されている。</p> <p>以上の条件が満たされた場合にB評価とする。</p> <p>C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の標準」に準ずる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」の 活動について 教員が提案するプレ・ プロジェクトの中から 自分が興味・関心のある プロジェクトを選 び、参加する。	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる。 プレ・プロジェクトに 登録できる。	(予習) シラバスを読 んで科目の概要を把握 しておく。 (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-8	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト)	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる。	(予習) 自身が参加す るプロジェクトの活動 内容を確認しておく。 (復習) 活動記録を作 成する。 ※時間外にも積極的に 活動に参加する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り① 「何に取り組んだか」 の振り返り	プレゼンテーション	自身が参加したプロ ジェクトの活動内容が 発表できる。	(予習) 発表準備：プ ロジェクトの活動内容 をグループでまとめ る。 (復習) 発表内容につ いてのコメントから自 分達の活動を再度振り 返る。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り② 「チームとしてどのよ うに取り組んだか」の 振り返り	グループワーク	プロジェクトに対する 自身のあるいはグル ープでの取り組みを自分 達で評価できる。	(予習) 活動記録を整 理し、自分達のプロ ジェクトへの組み 方を整理しておく。 (復習) 振り返りの結 果から、プロジェクト を成功に導くためのポ イントを再考する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11	プロジェクトをつくる その1 教員からの提案	レクチャー	教員からのプロジェク トの提案が理解でき る。	(予習) プロジェクトを考 えるために先行事例の収集 をおこなう(継続)。 (復習) 先行事例の調査/ プレ・スタジオ体験/教員 からの提案をもとに、自分 が取り組んでみたいプロ ジェクトを考える。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
12- 14	プロジェクトをつくる その2, 3, 4 企画案の検討	グループワーク	グループで協力し、次 年度のスタジオプロ ジェクトの企画案を作 成することができる。	(予習) プロジェクト の参考となる先行事例 を収集する(継続)。 (復習) グループワー クで作成したプロジェ クト案の改善を検討す る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	プロジェクトをつくる その5 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	個人もしくはグル ープでプロジェクト案の提 案ができる。	(予習) プレゼンテー ション用のポスターを 作成する。 (復習) ポスター発表 時に受けたアドバイス から企画案の改善をお こなう。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
					180	

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031C	スタジオ入門 (小野憲一) STUDIO introduction	小野憲一		専門	2	必修	2後期

**科目の概要**

勉強を意味する「スタディ」と本科目名「スタジオ」の語源は共に「ステューディオ」という何かに熱中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態が何かに取り組むことであり、その作業をおこなう場が「スタジオ」である。みなさんには、この「スタジオ」で夢中に「スタディ」をしてほしい。  
 「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熱中、集中して取り組むための準備をおこなう。  
 まず、前半では教員が提案するブレ・プロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。  
 そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実践的な課題解決へ向けて、「ライフスタイル学習」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技術・能力を活用するためにはどうしたらよいのかも考えていってもらいたい。  
 本科目とこれにつく「スタジオ実践C」はDP1「建学の精神、社会人基礎力、nissu型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」、DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる」、DP3「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組む、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」となることを目指すライフスタイル学科のカリキュラムの核となる。

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見する。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的に課題を達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容が提案できる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**      **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

**テキスト及び参考文献**

テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。  
 参考書：授業内で適宜紹介していく。

**他科目との関連、資格との関連**

この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA, B, Cさらには卒業研究へとつながっている。

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていくよう心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		30	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		60	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割を認識し、課題の完成に向けて積極的に取り組んでいる。</li> <li>活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。</li> </ul> <p>上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS（秀）評価とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力的な態度で課題に取り組んでいる。</li> <li>活動報告がきちんと記録され、提出されている。</li> </ul> <p>以上の条件が満たされた場合にB評価とする。 C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の標準」に準ずる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」の 活動について 教員が提案するプレ・ プロジェクトの中から 自分が興味・関心のある プロジェクトを選 び、参加する。	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる。 プレ・プロジェクトに 登録できる。	(予習) シラバスを読 んで科目の概要を把握 しておく。 (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-8	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト)	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる。	(予習) 自身が参加す るプロジェクトの活動 内容を確認しておく。 (復習) 活動記録を作 成する。 ※時間外にも積極的に 活動に参加する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り① 「何に取り組んだか」 の振り返り	プレゼンテーション	自身が参加したプロ ジェクトの活動内容が 発表できる。	(予習) 発表準備：プ ロジェクトの活動内容 をグループでまとめ る。 (復習) 発表内容につ いてのコメントから自 分達の活動を再度振り 返る。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り② 「チームとしてどのよ うに取り組んだか」の 振り返り	グループワーク	プロジェクトに対する 自身のあるいはグルー プでの取り組みを自分 達で評価できる。	(予習) 活動記録を整 理し、自分達のプロ ジェクトへの組み 方を整理しておく。 (復習) 振り返りの結 果から、プロジェクト を成功に導くためのポ イントを再考する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11	プロジェクトをつくる その1 教員からの提案	レクチャー	教員からのプロジェク トの提案が理解でき る。	(予習) プロジェクトを考 えるために先行事例の収集 をおこなう(継続)。 (復習) 先行事例の調査/ プレ・スタジオ体験/教員 からの提案をもとに、自分 が取り組んでみたいプロ ジェクトを考える。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
12- 14	プロジェクトをつくる その2, 3, 4 企画案の検討	グループワーク	グループで協力し、次 年度のスタジオプロ ジェクトの企画案を作 成することができる。	(予習) プロジェクト の参考となる先行事例 を収集する(継続)。 (復習) グループワー クで作成したプロジェ クト案の改善を検討す る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	プロジェクトをつくる その5 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	個人もしくはグループ でプロジェクト案の提 案ができる。	(予習) プレゼンテー ション用のポスターを 作成する。 (復習) ポスター発表 時に受けたアドバイス から企画案の改善をお こなう。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
					180	

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031D	スタジオ入門 (龍田建次) STUDIO introduction	龍田建次		専門	2	必修	2後期

**科目の概要**

勉強を意味する「スタディ」と本科目名「スタジオ」の語源は共に「ステューディオ」という何かに熱中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態が何かに取り組むことであり、その作業をおこなう場が「スタジオ」である。みなさんには、この「スタジオ」で夢中に「スタディ」をしてほしい。「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熱中、集中して取り組むための準備をおこなう。まず、前半では教員が提案するブレ・プロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実践的な課題解決へ向けて、「ライフスタイル学習」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技術・能力を活用するためにはどうしたらよいのかも考えていってもらいたい。

本科目とこれにつく「スタジオ実践C」はDP1「建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」、DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる」、DP3「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組む、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」となることを目指すライフスタイル学科のカリキュラムの核となる。

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見する。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的に課題を達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容が提案できる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**      **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

**テキスト及び参考文献**

テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。  
 参考書：授業内で適宜紹介していく。

**他科目との関連、資格との関連**

この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA, B, Cさらには卒業研究へとつながっている。

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていく心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
			⑤				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
		レポート	30	①		✓	・提出が義務付けられている自分およびグループの活動記録の提出状況及び、内容(20点) ・プレゼンテーション聴講レポートの内容(10点) を評価する。 ※課題はGoogle classroomで提出
				②		✓	
				③		✓	
				④		✓	
				⑤		✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	60	①		✓	・プレ・プロジェクトでの活動内容(30点) ・スタジオプロジェクトの企画プレゼンテーションの内容(30点) を評価する。 ただし、評価はグループ内で一律ではなく、発表に対する各人の貢献度によって異なる。 ※企画書とプレゼンテーションのデータはGoogle classroomで提出
				②		✓	
				③		✓	
				④		✓	
				⑤		✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	【主体性】目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。 【働きかけ力】目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。 【実行力】目標達成のために、困難を乗り越えることができる。 【課題発見力】課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。 【計画力】課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。 【創造力】与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。 【発信力】課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。 【傾聴力】プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。 【柔軟性】プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。 【状況把握力】目標達成に向け、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。 【規律性】課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。 【ストレスコントロール力】目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・自分の役割を認識し、課題の完成に向けて積極的に取り組んでいる。 ・活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。 上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS(秀)評価とする。	・協力的な態度で課題に取り組んでいる。 ・活動報告がきちんと記録され、提出されている。 以上の条件が満たされた場合にB評価とする。 C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の標準」に準ずる。



週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」の 活動について 教員が提案するプレ・ プロジェクトの中から 自分が興味・関心のある プロジェクトを選び、参加する。	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる。 プレ・プロジェクトに 登録できる。	(予習) シラバスを 読んで科目の概要を把握 しておく。 (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-8	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト)	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる。	(予習) 自身が参加する プロジェクトの活動 内容を確認しておく。 (復習) 活動記録を作成する。 ※時間外にも積極的に 活動に参加する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り返り① 「何に取り組んだか」 の振り返り	プレゼンテーション	自身が参加したプロ ジェクトの活動内容が 発表できる。	(予習) 発表準備：プロ ジェクトの活動内容 をグループでまとめ る。 (復習) 発表内容につ いてのコメントから自 分達の活動を再度振り 返る。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り返り② 「チームとしてどのよ うに取り組んだか」の 振り返り	グループワーク	プロジェクトに対する 自身のあるいはグル ープでの取り組みを自分 達で評価できる。	(予習) 活動記録を整理し、自分達のプロ ジェクトへの取り組み 方を整理しておく。 (復習) 振り返りの結 果から、プロジェクト を成功に導くためのポ イントを再考する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11	プロジェクトをつくる その1 教員からの提案	レクチャー	教員からのプロジェク トの提案が理解でき る。	(予習) プロジェクトを考 えるために先行事例の収集 をおこなう(継続)。 (復習) 先行事例の調査/ プレ・スタジオ体験/教員 からの提案をもとに、自分 が取り組んでみたいプロ ジェクトを考える。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
12- 14	プロジェクトをつくる その2, 3, 4 企画案の検討	グループワーク	グループで協力し、次 年度のスタジオプロ ジェクトの企画案を作 成することができる。	(予習) プロジェクト の参考となる先行事例 を収集する(継続)。 (復習) グループワー クで作成したプロジェ クト案の改善を検討す る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	プロジェクトをつくる その5 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	個人もしくはグル ープでプロジェクト案の提 案ができる。	(予習) プレゼンテー ション用のポスターを 作成する。 (復習) ポスター発表 時に受けたアドバイス から企画案の改善をお こなう。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
					180	

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

## 2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031E	スタジオ入門 (山口佐和子) STUDIO introduction	山口佐和子		専門	2	必修	2後期

## 科目の概要

勉強を意味する「スタディ」と科目名「スタジオ」の語源は共に「ステュディオス」という何かに熟中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態で何かに取り組むことであり、その作業をおこなう場が「スタジオ」である。みなさんには、この「スタジオ」で夢中に「スタディ」をしてほしい。「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熟中、集中して取り組むための準備をおこなう。まず、前半では教員が提案するブレ・プロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実務的な課題解決に向けて、「ライフスタイル学演習」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技術・能力を活用するためにはどうしたらよいのかも考えてもらいたい。本科目とこれにつづく「スタジオA, B, C」はDP1「建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得して職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」、DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて地域再生に貢献することができる」、DP3「自立した社会人として常に自己研鑽に取り組み自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」ようになることを目指すライフスタイル学科のカリキュラムの核となる。

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見する。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的に課題を達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容が提案できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

## テキスト及び参考文献

テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。  
参考書：授業内で適宜紹介していく。

## 他科目との関連、資格との関連

この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA, B, Cさらには卒業研究へとつながっている。

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていく心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		30	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		60	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割を認識し、課題の完成に向けて積極的に取り組んでいる。</li> <li>活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。</li> </ul> <p>上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS（秀）評価とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力的な態度で課題に取り組んでいる。</li> <li>活動報告がきちんと記録され、提出されている。</li> </ul> <p>以上の条件が満たされた場合にB評価とする。 C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の標準」に準ずる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」の 活動について 教員が提案するプレ・ プロジェクトの中から 自分が興味・関心のある プロジェクトを選び、参加する。	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる。 プレ・プロジェクトに 登録できる。	(予習) シラバスを 読んで科目の概要を把握 しておく。 (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-8	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト)	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる。	(予習) 自身が参加する プロジェクトの活動 内容を確認しておく。 (復習) 活動記録を作成 する。 ※時間外にも積極的に 活動に参加する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り返り ① 「何に取り組んだか」 の振り返り	グループワーク プレゼンテーション プレゼンテーションに 対するフィードバック	自身が参加したプロ ジェクトの活動内容が 発表できる。	(予習) 発表準備：プロ ジェクトの活動内容 をグループでまとめ る。 (復習) 発表内容につ いてのコメントから自 分達の活動を再度振り 返る。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り返り ② 「チームとしてどのよ うに取り組んだか」の 振り返り	グループワーク	プロジェクトに対する 自身のあるいはグル ープでの取り組みを自分 達で評価できる。	(予習) 活動記録を整 理し、自分達のプロ ジェクトへの組み 方を整理しておく。 (復習) 振り返りの結 果から、プロジェクト を成功に導くためのポ イントを再考する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11- 13	プロジェクトをつくる その1~3 企画案の検討	グループワーク	グループで協力し、次 年スタジオプロジェクト の企画案を作成する ことができる。	(予習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう。 (復習) 先行事例の調 査(継続) /プレ・ス タジオ体験をもとに、 自分が取り組んでみた いプロジェクトを考え る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
14	プロジェクトをつくる その4 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	グループで協力し、次 年度スタジオプロジェ クトの企画案の提案が できる。	(予習) プレゼンテー ション用の資料を作成 する。 (復習) 教員のアドバ イスから企画案の改善 をおこなう。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	プロジェクトをつくる その5 企画書の作成	オンデマンド配信 (Google classroomで の課題提示) グループワーク (Google workspace)	グループで協力し、次 年度スタジオプロジェ クトの企画書が作成で きる。	(予習) 教員のアドバ イスから企画案の改善 をおこなう。 (復習) 指定された期 日までに企画書を完成 させる。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031F	スタジオ入門 (平岩暁子) STUDIO introduction	平岩暁子		専門	2	必修	2後期

**科目の概要**

勉強を意味する「スタディ」と本科目名「スタジオ」の語源は共に「ステューディオ」という何かに熱中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態が何かに取り組むことであり、その作業をおこなう場が「スタジオ」である。みなさんには、この「スタジオ」で夢中に「スタディ」をしてほしい。「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熱中、集中して取り組むための準備をおこなう。まず、前半では教員が提案するブレ・プロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実践的な課題解決へ向けて、「ライフスタイル学習」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技術・能力を活用するためにはどうしたらよいのかも考えていってもらいたい。

本科目とこれにつく「スタジオ実践C」はDP1「建学の精神、社会人基礎力、nissu型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」、DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる」、DP3「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組む、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」となることを目指すライフスタイル学科のカリキュラムの核となる。

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見する。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的に課題を達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容が提案できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

**テキスト及び参考文献**

テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。  
 参考書：授業内で適宜紹介していく。

**他科目との関連、資格との関連**

この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA, B, Cさらには卒業研究へとつながっている。

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていく心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		30	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		60	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>・自分の役割を認識し、課題の完成に向けて積極的に取り組んでいる。</p> <p>・活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。</p> <p>上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS（秀）評価とする。</p>	<p>・協力的な態度で課題に取り組んでいる。</p> <p>・活動報告がきちんと記録され、提出されている。</p> <p>以上の条件が満たされた場合にB評価とする。</p> <p>C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の標準」に準ずる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」の 活動について 教員が提案するプレ・ プロジェクトの中から 自分が興味・関心のある プロジェクトを選 び、参加する。	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる。 プレ・プロジェクトに 登録できる。	(予習) シラバスを読 んで科目の概要を把握 しておく。 (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-8	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト)	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる。	(予習) 自身が参加す るプロジェクトの活動 内容を確認しておく。 (復習) 活動記録を作 成する。 ※時間外にも積極的に 活動に参加する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り① 「何に取り組んだか」 の振り返り	プレゼンテーション	自身が参加したプロ ジェクトの活動内容が 発表できる。	(予習) 発表準備：プ ロジェクトの活動内容 をグループでまとめ る。 (復習) 発表内容につ いてのコメントから自 分達の活動を再度振り 返る。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り② 「チームとしてどのよ うに取り組んだか」の 振り返り	グループワーク	プロジェクトに対する 自身のあるいはグル ープでの取り組みを自分 達で評価できる。	(予習) 活動記録を整 理し、自分達のプロ ジェクトへの組み 方を整理しておく。 (復習) 振り返りの結 果から、プロジェクト を成功に導くためのポ イントを再考する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11	プロジェクトをつくる その1 教員からの提案	レクチャー	教員からのプロジェク トの提案が理解でき る。	(予習) プロジェクトを考 えるために先行事例の収集 をおこなう(継続)。 (復習) 先行事例の調査/ プレ・スタジオ体験/教員 からの提案をもとに、自分 が取り組んでみたいプロ ジェクトを考える。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
12- 14	プロジェクトをつくる その2, 3, 4 企画案の検討	グループワーク	グループで協力し、次 年度のスタジオプロ ジェクトの企画案を作 成することができる。	(予習) プロジェクト の参考となる先行事例 を収集する(継続)。 (復習) グループワー クで作成したプロジェ クト案の改善を検討す る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	プロジェクトをつくる その5 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	個人もしくはグル ープでプロジェクト案の提 案ができる。	(予習) プレゼンテー ション用のポスターを 作成する。 (復習) ポスター発表 時に受けたアドバイス から企画案の改善をお こなう。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
					180	

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031G	スタジオ入門 (今泉充啓) STUDIO introduction	今泉充啓		専門	2	必修	2後期

**科目の概要**

勉強を意味する「スタディ」と本科目名「スタジオ」の語源は共に「ステューディオ」という何かに熱中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態が何かに取り組むことであり、「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熱中、集中して取り組むための準備をおこなう。まず、前半では現3年生が取り組んでいるプロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実際の課題解決へ向けて、「ライフスタイル学習」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技術・能力を活用するためにはどうしたらよいのかも考えていってもらいたい。

本科目とこれにつく「スタジオ実践C」はDP1「建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」、DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる」、DP3「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組み、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」となることを目指すライフスタイル学科のカリキュラムの核となる。

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見する。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的課題が達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容が提案できる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**      **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

**テキスト及び参考文献**

テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。  
 参考書：授業内で適宜紹介していく。

**他科目との関連、資格との関連**

この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA, B, Cさらには卒業研究へとつながっている。

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていくよう心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。



【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		30	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		60	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割を認識し、課題の完成に向けて積極的に取り組んでいる。</li> <li>活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。</li> </ul> <p>上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS（秀）評価とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力的な態度で課題に取り組んでいる。</li> <li>活動報告がきちんと記録され、提出されている。</li> </ul> <p>以上の条件が満たされた場合にB評価とする。 C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の標準」に準ずる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」 の活動について	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる	(予習) シラバスを 読んで科目の概要を 把握しておく (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-6	スタジオ体験 2022年度に進められて いるスタジオプロジェ クトの中から自分が興 味・関心のあるプロ ジェクトを選び、参加 する	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる	(予習) 自身が参加す るプロジェクトの活動 内容を確認しておく (復習) 活動記録を作 成する ※時間外にも積極的に 活動に参加する	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
7	スタジオ報告会聴講	プレゼンテーション聴 講	報告会を聴講し、その 内容をレポートできる	(予習) 自身が「スタ ジオ体験」で参加した 以外のプロジェクトに ついてはその活動内容 を確認しておく (復習) 報告会聴講レ ポートを作成する	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
8	プロジェクトをつくる その1 教員からの提案	プレゼンテーション (ポスター発表) 聴講	教員からのプロジェク ト提案が理解できる	(予習) プロジェクトを 考えるために先行事例 の収集をおこなう(継続) (復習) 先行事例の調査 /スタジオ体験/スタジ オ報告会/教員からの提 案をもとに、自分が取り 組んでみたいプロジェク トを考える	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
9-10	プロジェクトをつくる その2, 3 企画案の検討①	グループワーク	グループで協力し、プロ ジェクトの企画案を作 成することができる。	(予習) プロジェクト の参考となる先行事例 を収集する(継続) (復習) グループワー クで作成したプロジェ クト案の改善を検討す る	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
11- 12	プロジェクトをつくる その4, 5 企画案の検討②	グループワーク	グループで協力し、プロ ジェクトの企画案を作 成することができる。	(予習) プロジェクト の参考となる先行事例 を収集する(継続) (復習) グループワー クで作成したプロジェ クト案の改善を検討す る	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
13	プロジェクトをつくる その6 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	個人もしくはグループ でプロジェクト案の提 案ができる	(予習) プレゼンテー ション用のポスターを 作成する (復習) ポスター発表 時に受けたアドバイス から企画案の改善をお こなう	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
14	プロジェクトをつくる その7 プロジェクトの確定～ プロジェクト企画の修 正提案をおこないメン バーを募る	グループワーク	提案した/されたプロ ジェクトのいずれかに 所属することができる	(予習) 修正提案用の ポスターを作成する (復習) 確定したメン バーと企画案から実施 計画の作成を進める (以降、継続)	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
15	スタジオ最終報告会 2022年度スタジオプロジェクトの最終報告を聴講する	プレゼンテーション聴講	2022年度スタジオプロジェクトの成果が理解できる	(予習) 2023年度スタジオプロジェクト企画案から実施計画の作成を進める(継続) (復習) 2022年度スタジオプロジェクトの成果を確認するとともに反省点と改善点を整理する。		課題発見力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2024年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
120122031H	スタジオ入門 (山田陽平) STUDIO introduction	山田陽平		専門	2	必修	2後期

**科目の概要**

勉強を意味する「スタディ」と本科目名「スタジオ」の語源は共に「ステューディオ」という何かに熱中、集中している状態を示すラテン語にあるという。つまり本来「スタディ」とは強いて勉めることではなく、夢中になった状態が何かに取り組むことであり、その作業をおこなう場が「スタジオ」である。みなさんには、この「スタジオ」で夢中に「スタディ」をしてほしい。「スタジオ入門」では3年次に1年間かけて「スタジオ」のプロジェクトに熱中、集中して取り組むための準備をおこなう。まず、前半では教員が提案するブレ・プロジェクトに参加することにより、「スタジオ」のプロジェクトでチーム活動をしていくためのノウハウを知る。そこで得た経験から、後半では自分たちが3年次にスタジオで展開するプロジェクトの企画を作り上げていく。その中で「新たなライフスタイルの提案」へとつながる実践的な課題解決へ向けて、「ライフスタイル学習」をはじめとしたこれまでの学修で身に付けた知識・技術・能力を活用するためにはどうしたらよいのかも考えていってもらいたい。

本科目とこれにつく「スタジオ実践C」はDP1「建学の精神、社会人基礎力、basic型学力を修得して、職場と地域の人々と協働して解決していくことができる」、DP2「ライフスタイルのデザインを提案するために必要な衣・食・住および地域活性に関連する専門的知識・技能を身に付けて、地域再生に貢献することができる」、DP3「自立した社会人として、常に自己研鑽に取り組む、自らの可能性を高めて社会に貢献することができる」となることを目指すライフスタイル学科のカリキュラムの核となる。

学修内容	到達目標
① スタジオでプロジェクトに取り組む意義を理解する。 ② チームで協力して作業を進めることを経験する。 ③ PDCAサイクルを活用する。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見する。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容を提案する。	① ライフスタイル学科での学びにおけるスタジオのプロジェクトの位置づけが理解できる。 ② チームで協力して作業を進め、課題を達成できる。 ③ PDCAサイクルを活用して、計画的に課題を達成できる。 ④ 地域のあるいは自分たち自身の生活の中から課題を発見することができる。 ⑤ 課題を抽出し、それを解決するための活動内容が提案できる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**      **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	目標達成に向け、時間や労力を惜しまず継続して取り組むことができる。
	働きかけ力	目標達成に向け、よりよい協力関係を築くことができるようチームのメンバーに声掛けができる。
	実行力	目標達成のために、困難を乗り越えることができる。
考え抜く力	課題発見力	課題の問題点を客観的に分析し、その解決方法を提案することができる。
	計画力	課題を円滑に進めるためのスケジュール管理ができる。
	創造力	与えられた課題をよりよい解決に導くために複数のアイデアから最善の方策を導き出すことができる。
チームで働く力	発信力	課題の進捗状況を整理し、聞き手に解りやすい工夫を加えながら発表することができる。
	傾聴力	プロジェクトに関わる様々な立場の人と円滑なコミュニケーションをとることができる。
	柔軟性	プロジェクトに関わる様々な立場の異なる意見や価値観を理解し、受け入れることができる。
	状況把握力	目標達成に向け、自分のやるべきことを理解し、行動することができる。
	規律性	課題を円滑に進めるためのルールをメンバー同士で確認し、それを遵守することができる。
	ストレスコントロール力	目標達成のための困難を自己成長の機会と捉え、前向きに受けとめることができる。

**テキスト及び参考文献**

テキストは用いない。必要に応じてプリント資料を配布する。資料はgoogle classroomにて提示する。  
 参考書：授業内で適宜紹介していく。

**他科目との関連、資格との関連**

この科目はライフスタイル学科での学びの軸となる科目であり、ライフスタイル学科で学ぶすべての科目と広く関係している。直接的にはライフスタイル学演習Ⅰ～Ⅲの次に位置し、3年時のスタジオA, B, Cさらには卒業研究へとつながっている。

学修上の助言	受講生とのルール
課題を達成させるためには、チーム内での連携、教員スタッフからの支援を必要とする。積極的に周囲とのコミュニケーションをはかり、全体の協力体制を築いていく心がけてほしい。	グループでの作業が基本となるので無断欠席は厳に慎むこと。また、スタジオ学習は、自ら主体的に課題を発見し取り組んでいく科目であり、授業時間内のみでなくそれ以外の多くの時間でも、課題達成に向けての作業が必要になることを理解しておいてほしい。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
		レポート		30	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		60	①	✓	
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割を認識し、課題の完成に向けて積極的に取り組んでいる。</li> <li>活動報告が詳細に記録され、期日を守って提出されている。</li> </ul> <p>上記項目を満たし、グループワークにおいて高い貢献が認められた場合にS（秀）評価とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力的な態度で課題に取り組んでいる。</li> <li>活動報告がきちんと記録され、提出されている。</li> </ul> <p>以上の条件が満たされた場合にB評価とする。 C評価の基準は授業計画「到達レベルC(可)の標準」に準ずる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 「スタジオ入門」と 「スタジオA, B, C」の 活動について 教員が提案するプレ・ プロジェクトの中から 自分が興味・関心のある プロジェクトを選 び、参加する。	レクチャー	スタジオ学習とは何か が理解できる。 プレ・プロジェクトに 登録できる。	(予習) シラバスを読 んで科目の概要を把握 しておく。 (復習) プロジェクト を考えるために先行事 例の収集をおこなう (以降、継続)。	180	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力
2-8	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト)	グループ活動 ミーティング	プロジェクトの活動に 積極的に参加できる。	(予習) 自身が参加す るプロジェクトの活動 内容を確認しておく。 (復習) 活動記録を作 成する。 ※時間外にも積極的に 活動に参加する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
9	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り① 「何に取り組んだか」 の振り返り	プレゼンテーション	自身が参加したプロ ジェクトの活動内容が 発表できる。	(予習) 発表準備：プ ロジェクトの活動内容 をグループでまとめ る。 (復習) 発表内容につ いてのコメントから自 分達の活動を再度振り 返る。	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
10	スタジオ体験 (プレ・ プロジェクト) の振り 返り② 「チームとしてどのよ うに取り組んだか」の 振り返り	グループワーク	プロジェクトに対する 自身のあるいはグルー プでの取り組みを自分 達で評価できる。	(予習) 活動記録を整 理し、自分達のプロ ジェクトへの組み 方を整理しておく。 (復習) 振り返りの結 果から、プロジェクト を成功に導くためのポ イントを再考する。	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性
11	プロジェクトをつくる その1 教員からの提案	レクチャー	教員からのプロジェク トの提案が理解でき る。	(予習) プロジェクトを考 えるために先行事例の収集 をおこなう(継続)。 (復習) 先行事例の調査/ プレ・スタジオ体験/教員 からの提案をもとに、自分 が取り組んでみたいプロ ジェクトを考える。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
12- 14	プロジェクトをつくる その2, 3, 4 企画案の検討	グループワーク	グループで協力し、次 年度のスタジオプロ ジェクトの企画案を作 成することができる。	(予習) プロジェクト の参考となる先行事例 を収集する(継続)。 (復習) グループワー クで作成したプロジェ クト案の改善を検討す る。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	プロジェクトをつくる その5 プロジェクトの提案	ポスター発表 ディスカッション	個人もしくはグループ でプロジェクト案の提 案ができる。	(予習) プレゼンテー ション用のポスターを 作成する。 (復習) ポスター発表 時に受けたアドバイス から企画案の改善をお こなう。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
					180	

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力